Genie
A TEREX BRAND

操作説明書

シリアル番号の範囲

Superlift® Advantage

28240 から SLA16-61164 まで
SLA16-61165 から SLA16G-64899 まで
SLAG-64900 から SLAG-70696 まで
SLAP-85613 から SLAP-85612 まで

英語版操作説明書の翻訳
Third Edition
Fourth Printing
Part No. 97550JAGT

重要

本機械を操作する前に、操作説明書の中の安全規則と操作指示をよく読み、理解し、従ってください。トレーニングを受け認定された担当者のみが、機械を操作することを許されます。本説明書は機械の一部とみなされ、必ず機械と一緒に置かれていなければなりません。ご質問等がありましたら、弊社にお問い合わせください。

お問合せ先:

インターネット:www.genielift.com

E メール:awp.techpub@terex.com

目次

はじめに 1
安全規則 2
説明 6
操作前の点検 8
機能テスト 10
作業場の点検 15
操作手順 16
積載荷重量表 18
輸送および持ち上げの手順 20
ステッカー 21
仕様 25

Copyright © 1994 Genie Industries

第 3 版: 第 4 版, 7 月 2024

「Genie」は米国およびその他の国における
Terex South Dakota, Inc. の登録商標です。

はじめに



危険

本説明書の操作指示と安全規則に従わなかった場合、死亡または重傷事故の原因となることがあります。

操作を行う必須条件は、以下のとおりです。

☑ 本操作説明書の安全な機械操作の原則を学び、実施してください。

1 危険な状態での使用を避ける。

次のセクションに進む前に、安全規則を承知し理解する。

2 必ず操作前の点検を行う。

3 使用する前に必ず機能テストを行う。

4 作業場を点検する。

5 決められた用途にのみ機械を使用する。

☑ 製品取扱説明書と安全規則 ― 安全マニュアルおよび操作説明書と機械ステッカーをよく読み、理解し、それに従う。

☑ 従業員の安全規則と作業場所の規則をよく読み、理解し、それに従う。

☑ 該当するすべての法規をよく読み、理解し、それに従う。

☑ 使用者は安全に機械操作を行うための適切なトレーニングを受ける。

安全規則

⚠ 落下の危険

人員運搬用の台または踏み台として使用しないでください。

積荷取扱いアタッチメントの上に立たないでください。

マストに登らないでください。

⚠ 転倒の危険

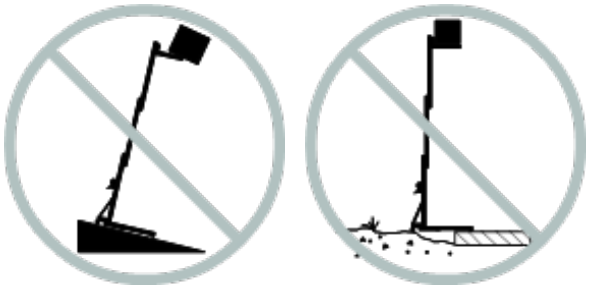
安全装置（装備されている場合）と脚部が完全に下がりロックされていること、およびキャスターが完全に地に付いていることを確認してから、積荷を上げてください。

脚固定ピンが適切に脚とベースに正しく挿入されていない場合は、積荷を上昇しないでください。



機械に積荷しているとき、あるいは上昇しているときは、脚の固定ピンを外さないでください。

機械がしっかりとした平坦な地面に設置されている場合以外は、積荷を上昇しないでください。



操作を始める前に、作業現場に急に低くなっている場所、くぼみやもりあがった箇所、障害物、不安定な地面、滑りやすい表面、またその他の危険な状態がないことを確認してください。

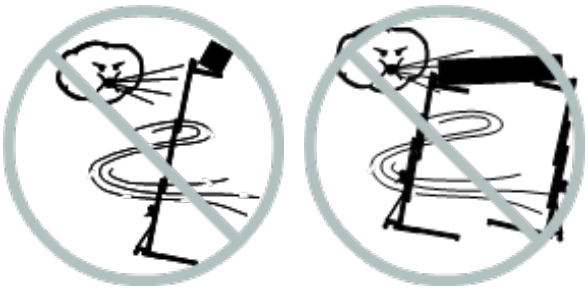
積荷取扱いアタッチメントが機械へ適切に固定されていない場合は、積荷を上昇させないでください。

ブロックを使用して、機械を水平にしないでください。



位置の微調整を行う以外、積載が上昇した状態で機械を移動させないでください。

強風時または突風時には機械を操作しないでください。荷重表面積を大きくなると、風の強い状況での機械の安定性が低下します。

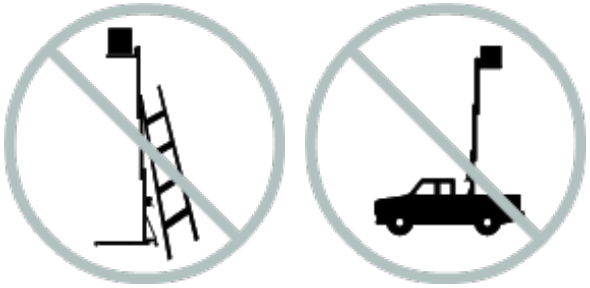


強風の状態では、機械が支え線でしっかりと固定されている場合を除き、積載を上げたままの状態にしないでください。

機械に水平力あるいは側面荷重を与える原因になるので、固定されている積荷やぶら下っている状態の積荷を上下に移動させないでください。

安全規則

機械どの部分にもはしごや足場を組まないでください。



動いている、または動く可能性のある表面、もしくは車両上で機械を使用しないでください。

最大定格積載荷重量を超えないでください。積載荷重量表のセクションを参照してください。

脚を折りたたんだ状態で機械を移動する場合、障害物のある場所や平らでない場所を避けてください。

機械の安定性や構造に大きくかかわる部品を、重量や仕様の異なるものと交換しないでください。

SLA-20 または SLA-25 にストラドルベースやフラットフォークを使用しないでください。

ストラドルベースの脚がトラベルストップを超えて伸びることがある場合は、機械を使用しないでください。

⚠ 持ち上げる際の危険

機械に積荷する際および機械を傾ける場合には、適切な手段により行ってください。

積載取扱いアタッチメントを取り付けるとき、または取り外すときは、適切な手段により行ってください。

⚠ 感電の危険

この機械は絶縁されておらず、電流との接触または電流への近接に対する保護は施されていません。

通電している電線に機械が接触している場合は、機械に近づかないでください。通電している送電線が遮断されるまで、作業員は絶対に機械に触れたり操作したりしないでください。



適合する法規および次の表に従って、電線や電気装置から安全な距離を保ってください。

電圧範囲	安全を確保するための最短距離	
0 ～ 300V	接触を避ける	
300V ～ 50KV	10 ft	3.05 m
50KV ～ 200KV	15 ft	4.60 m
200KV ～ 350KV	20 ft	6.10 m
350KV ～ 500KV	25 ft	7.62 m
500KV ～ 750KV	35 ft	10.67 m
750KV ～ 1,000KV	45 ft	13.72 m

マストの動き、電線の揺れやたるみに注意し、強風および突風に注意してください。

溶接するときに、機械をアースとして使用しないでください。

⚠ 人体への傷害の危険

ケーブルを握らないでください。

安全規則

⚠ 手のケガの危険

積荷が適切に積荷取扱いアタッチメントの中心に配置されていない場合は、積荷を上昇しないでください。

積荷取扱いアタッチメントに積荷が適切に固定されていない場合は、積荷を上昇しないでください。

積荷を上げるとき、機械の下に立たないでください。また、作業員がいないことを確認してください。



積荷の下に立たないでください。マストブレーキシステム（装備されている場合）は、積荷が 1～3 フィート/30～92cm 下がるのを確認してから支柱をロックします。

積荷の下に人がいないこと、また障害物がないことを確かめてから、積荷を下げてください。

折り畳み式の脚部など、手や指をはさむ可能性のある場所には触れないでください。

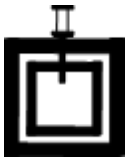
ロックプレートが解除されているときは、安全装置をしっかりと抑えてください。抑えていないと安全装置が落下します。

固定ピンを取り外すときは、脚をしっかりと抑えてください。抑えていないと脚が落下します。

ブレーキがロックされるまで、ウィンチハンドルをしっかり握ってください。積荷によってウィンチハンドルが回らなくなると、ブレーキがロックされます。

調節可能フラットフォーク

スナップピンがフォークに適切に挿入されていることを確認してから、積荷を上げてください。



延長フォーク

延長フォークが適切にフォークに固定されていることを確認してから、積荷を上昇してください。

⚠ 衝突の危険

作業場において、頭上に障害物もしくは他に危険なものがないことを確認してください。



周りに人がいたり障害物がある場合は、機械を後方に傾けないでください。

傾斜地で機械を移動する場合は、常識的な判断と手順をもって行ってください。

機械と輸送車両が平坦な地面にある場合以外、機械を車両に載せないでください。機械を積む場合は、適切な手段で行ってください。

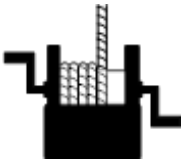
安全規則

⚠ 機械故障の危険



損傷もしくは故障している機械は使用しないでください。

ケーブルに磨耗、ほぐれ、よじれ、あるいは損傷がある場合は、機械を使用しないでください。



キャリッジが完全に下がっている状態でウィンチドラムにケーブルが 4 巻き以下しか残っていない機械は、使用しないでください。

毎回機械を使用する前に、操作前の点検を完全に行ってください。

すべてのステッカーが適切な位置にあり、文字が読める状態であることを確認してください。「ステッカー」のセクションを参照してください。

操作説明書が完備され、文字が読める状態で、機械の保管場所に保管されていることを確認してください。

ウィンチには潤滑油を差して常に適切な状態に保ってください。詳細については、*Genie Superlift 部品およびサービスマニュアル*を参照してください。

ブレーキ表面にオイルや油脂がつかないように注意してください。

支柱の表面にはどのような種類の潤滑剤も使用しないでください。

⚠ 誤用による危険

積荷している機械からは、絶対に離れないでください。権限のない人が適切な指示なしに機械を操作すると、危険な状態を招く恐れがあります。

ステッカーの説明

Genie 製品ステッカーは、識別しやすいよう、下記のようなシンボル、色別コード、および注意喚起語を使用しています。



安全警報シンボル – 作業員にケガの危険があることを知らせます。ケガや死亡の危険を避けるために、このシンボルの安全警告に従ってください。

⚠ 危険

赤 – 差し迫った危険があることを示します。この危険を回避しない場合は重傷または死に至ります。

⚠ 警告

オレンジ – 危険な状況になる可能性があることを示します。この危険を回避しない場合は重傷または死に至る可能性があります。

⚠ 要注意

安全上の警告シンボルを伴った黄色 – 危険な状況になる可能性があることを示します。この危険を回避しない場合は小さなケガから中程度のケガを負うことがあります。

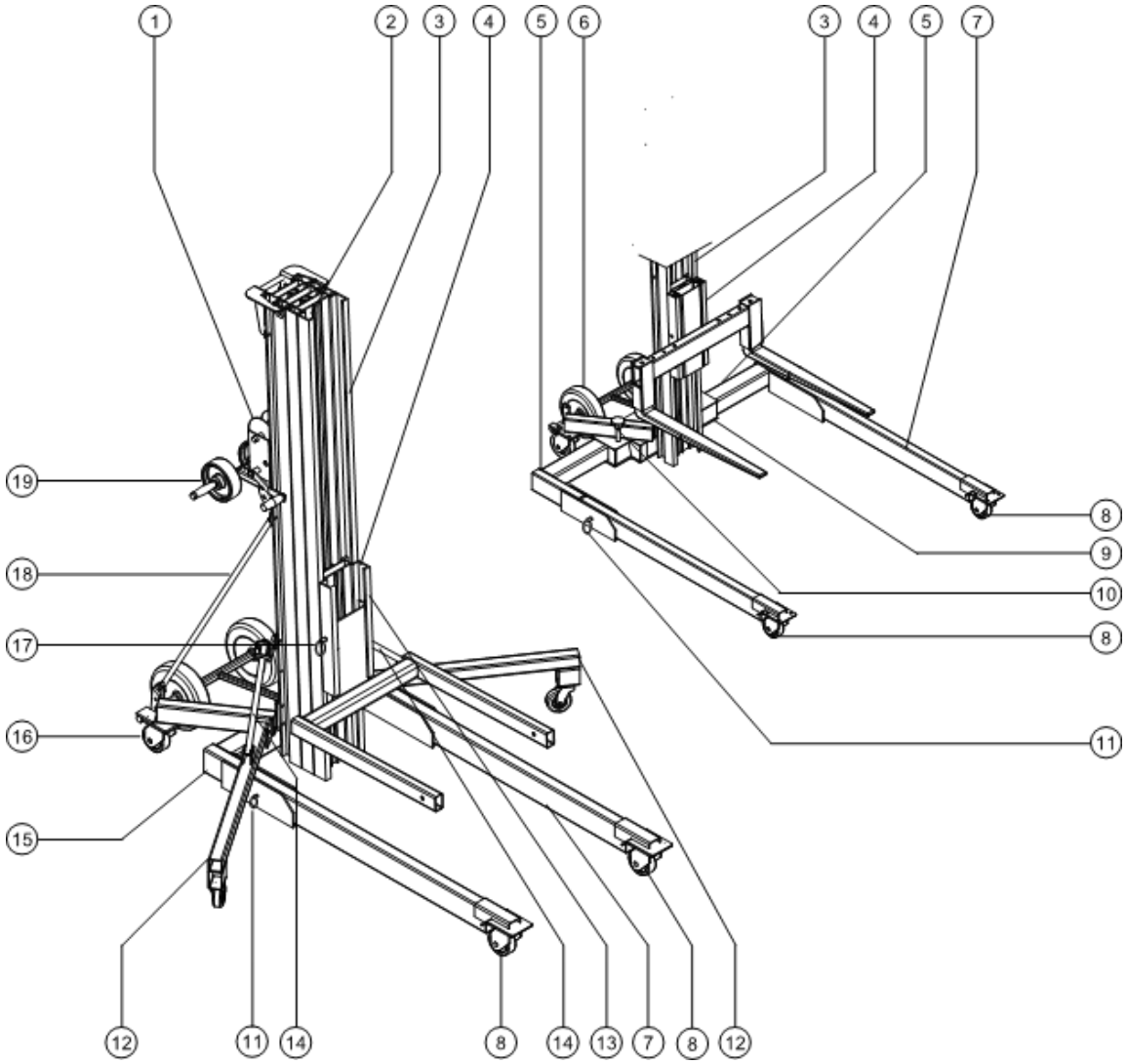
要注意

安全上の警告シンボルがない黄色 – 危険な状況になる可能性があることを示します。この危険を回避しない場合は機械が故障することがあります。

注意

緑 – 操作方法または保守に関する情報を示します。

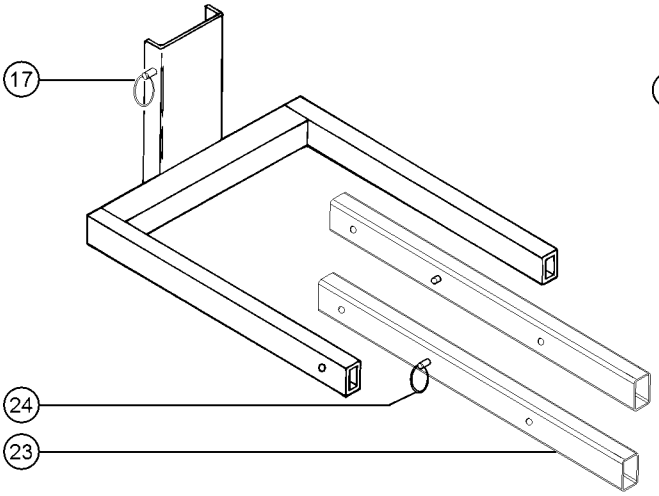
説明



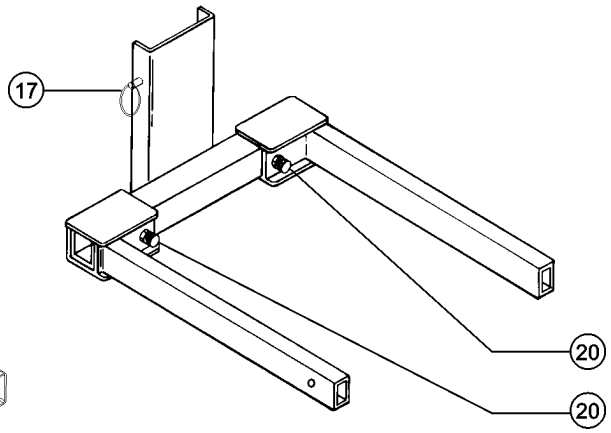
1 ウィンチ
2 ケーブル
3 マスト
4 キャリッジ
5 調整可能アーム
6 走行用車輪（搭載されている場合）
7 脚
8 脚回転キャスター
9 ストラドルベース
10 アームロックノブ
11 脚固定ピン
12 安全装置（搭載されている場合）
13 ホールドダウンバー（機械の反対側で）
14 安全装置締め金
15 標準ベース
16 ブレーキ付きベース回転/ロックキャスター
17 積荷用アタッチメント固定ピン

説明

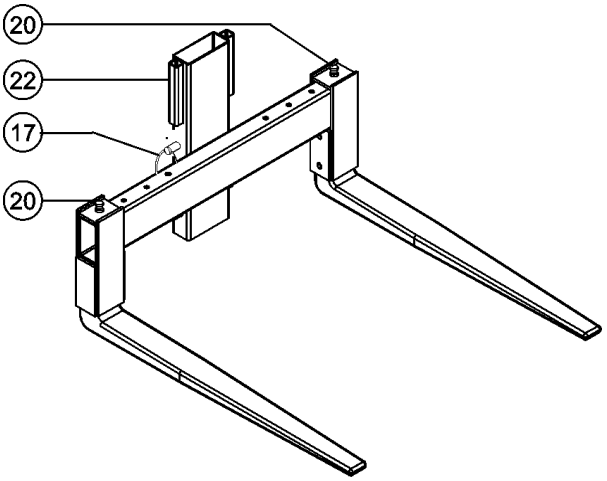
標準フォーク



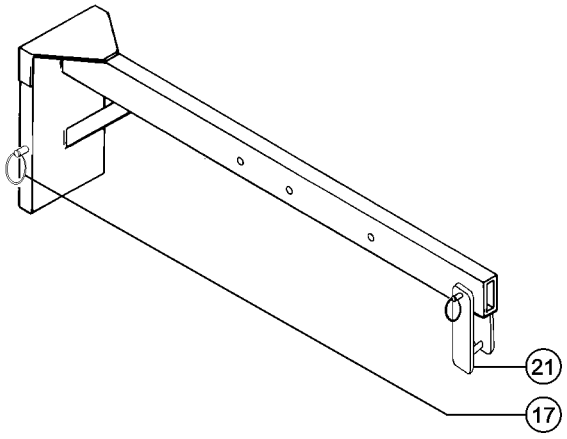
調節可能フォーク



調節可能フラットフォーク



ブーム



18 マスト締め金
19 積載ホイール/ステアリングハンドル
20 スナップピン
21 リフトシャックル
22 フォーク固定ブラケット
23 延長フォーク
24 延長フォーク固定ピン

操作前の点検



操作を行う必須条件は、以下のとおりです。

☑ 本操作説明書の安全な機械操作の原則を学び、実施してください。

1 危険な状態での使用を避ける。

2 常に操作前の点検を行う。

次のセクションに進む前に、操作前の点検についてよく理解してください。

3 使用する前に必ず機能テストを行う。

4 作業場を点検する。

5 決められた用途にのみ機械を使用する。

操作前の点検の基本

操作前の点検とは、各シフトの前にオペレータが行う目視点検です。この点検はオペレータが機能テストを行う前に、目で点検して異常な箇所を見つけることを目的としています。

次のページのリストを参照し、それぞれの項目を確認してください。

損傷または工場出荷時の状態からの無許可での改造を発見した場合は、機械に故障中の貼り紙をつけて使用を停止してください。

機械の修理は、認定を受けたサービス担当者のみが製品仕様に基づいて行ってください。修理完了後、オペレータは機能テストに移る前に再度操作前の点検を行ってください。

操作前の点検

操作前の点検

- ❑ 操作説明書が完備され、文字が読める状態で、機械の保管場所に保管されていることを確認してください。
- ❑ すべてのステッカーが文字が読める状態で、所定の位置にあることを確認します。「ステッカー」のセクションを参照してください。

以下の部品もしくは部分が損傷していたり、変更されていないか、きちんと設置されていなかったり、なくなっている部品がないかチェックしてください。

- ❑ ウィンチと関連部品
- ❑ ベース部品
- ❑ 脚
- ❑ 安全装置とラッチプレート（搭載されている場合）
- ❑ マスト柱
- ❑ 安全ブレーキ用外部プラスチックシム（搭載されている場合）
- ❑ キャリッジホールドダウンバー
- ❑ ケーブルアンカー
- ❑ ケーブルと滑車
- ❑ ホイールとキャスター
- ❑ 積荷取扱いアタッチメント
- ❑ ナット、ボルト、他の締め具
- ❑ ケーブル（よじれ、破れ、擦り切れ）

機械全体にわたって下記をチェックします。

- ❑ 溶接や機械部品の割れ
- ❑ 機械のへこみと故障
- ❑ 過度のさび、腐敗または酸化

- ❑ 機械を構成している全ての部品が欠けておらず、適合するファスナーやピンが正しい位置にしっかりと締められた状態にあることを確認します。
- ❑ キャリッジが完全に下がっているとき、ウィンチドラムにケーブルが 4 巻き以上のこっていることを確認します。

機能テスト



操作を行う必須条件は、以下のとおりです。

☑ 本操作説明書の安全な機械操作の原則を学び、実施してください。

1 危険な状態での使用を避ける。

2 必ず操作前の点検を行う。

3 使用する前に常に機能テストを行う。

次のセクションに進む前に、機能テストについてよく理解してください。

4 作業場を点検する。

5 決められた用途にのみ機械を使用する。

機能テストの基本

機能テストは、機械を使用する前に故障を見つけることを目的としています。オペレータは、指示された手順に従ってすべての機能をテストしてください。

故障している機械は決して使用しないでください。故障が見つかった場合は、故障の貼り紙を付けて作業を中止してください。機械の修理は、認定を受けたサービス担当者のみがメーカーの製品仕様に基づいて行ってください。

修理が終了後、オペレータは機械を使用する前に、操作前の点検と機能テストを再度実行してください。

機能テスト

1 テストを行う場所として、障害物がなく、安定した平坦な場所を選びます。

⚠ 注記:キャリッジホールドダウンバーがキャリッジの上にないことを確認してください。

セットアップ

安全装置を装備していない機械

1 脚固定ピンを取り外し、脚を下位置へ下降させます。ピンを脚とベースを貫いて挿入します。



安全装置を装備している機械

1 安全装置のロックプレートを押し下げて外し、安全装置をキャスターが完全に地に付くまで下降させます。安全装置が下の位置にロックされていることを確認します。



2 脚固定ピンを取り外し、脚を下位置へ下降させます。ピンを脚とベースを貫いて挿入します。



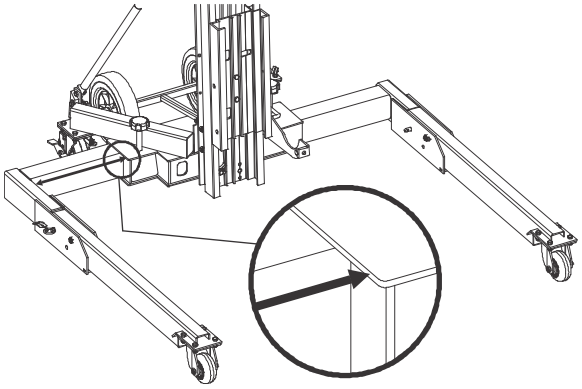
ストラドルベース

1 片側の脚回転キャスター下に 2 inch/5.1 cm ブロックを置きます。

2 反対側の調節可能アームのアームロックノブを緩めます。ロックノブを押し下げます。

3 調整可能アームを目的の幅へ移動します。

⚠ 注記:調節可能アームは 13.75 inch/35 cm 以上伸ばさないでください。



調節可能アームとストラドルベースの端の間の距離は、13.75 inch/35 cm を超えないようにしてください。

4 脚アセンブリを支えながら、アームロックノブを締めます。

5 1～4 のステップを繰り返し、もう 1 つのアームもセットします。

機能テスト

積荷取扱いアタッチメント

標準フォークおよび標準フォークオプション

1 フォークをキャリッジの内側に配置します。

2 固定ピンを挿入します。



標準フォーク付き積荷作業台

1 標準フォーク上に積荷作業台を置きます。

パイプクレードル

1 フォークにパイプクレードルを装着します。ファスナーがしっかりと締まっていることを確認します。

延長フォーク

1 各延長チューブをフォークへスライドさせます。

2 位置を調整し、固定ピンを挿入します。

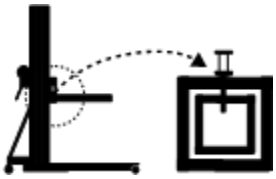
調節可能フォークおよび調節可能フォークオプション

1 フォークをキャリッジの内側に配置します。

2 固定ピンを挿入します。



3 フォークを目的の幅へ調節し、各フォークへスナップピンが正しく挿入されていることを確認します。



調節可能フォーク付き積荷作業台

1 フォークの幅を 23 inch/58.4 cm に調節します。

2 調節可能フォークに積荷作業台を置きます。

パイプクレードル

1 フォークにパイプクレードルを装着します。ファスナーがしっかりと締まっていることを確認します。

延長フォーク

1 各延長チューブをフォークへスライドさせます。

2 位置を調整し、固定ピンを挿入します。

機能テスト

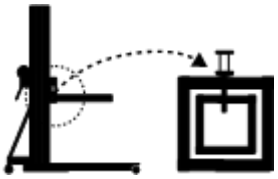
調節可能フラットフォーク

1 フォーク固定ブラケットをキャリッジの内側に配置します。

2 固定ピンを挿入します。



3 フォークを目的の幅へ調節し、各フォークへスナップピンが正しく挿入されていることを確認します。



標準ブーム

1 ブームをキャリッジの内側に配置します。

2 固定ピンを挿入します。



3 リフトシャックルをブームの穴に取り付けます。

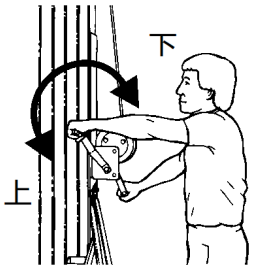
一定速度でのウィンチ操作のテスト

1 積荷取扱いアタッチメントを取り付けます。

2 ウィンチハンドルをしっかりと握ってマストの方向へ回転させ、キャリッジを上げます。

⊙ 結果：ウィンチは動きがぎこちなかったり止まったりすることなく、スムーズに動作する必要があります。

3 ウィンチハンドルをしっかりと握ってマストと逆の方向に回転させ、キャリッジを下げます。任意の位置まで下がったら、ウィンチハンドルをマストの方向（積荷を上げる）へ 1/4 回転させて、ブレーキをセットしてください。



⊙ 結果：ウィンチは動きがぎこちなかったり止まったりすることなく、スムーズに動作する必要があります。

機能テスト

低速/高速でのウィンチ操作のテスト

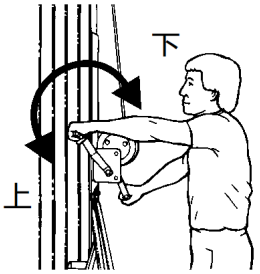
1 積荷取扱いアタッチメントを取り付けます。

2 ウィンチを低速にシフトします。

3 ウィンチハンドルをしっかりと握ってマストの方向へ回転させ、キャリッジを上げます。

⊙ 結果：ウィンチは動きがぎこちなかったり止まったりすることなく、スムーズに動作する必要があります。

4 ウィンチハンドルをしっかりと握ってマストと逆の方向に回転させ、キャリッジを下げます。任意の位置まで下がったら、ウィンチハンドルをマストの方向（積荷を上げる）へ 1/4 回転させて、ブレーキをセットしてください。



⊙ 結果：ウィンチは動きがぎこちなかったり止まったりすることなく、スムーズに動作する必要があります。

5 ウィンチを高速にシフトし、ステップ 3 と 4 を繰り返します。

マストシークエンスのテスト

1 積荷取扱いアタッチメントを取り付けます。

2 ウィンチハンドルをしっかりと握ってマストの方向へ回転させ、キャリッジを完全に上げます。

3 結果：キャリッジは、各マストセクションの順番に従い、前方マストセクションの最上部へ上がるはずです。

4 荷台を完全に下げます。任意の位置まで下がったら、ウィンチハンドルをマストの方向（積荷を上げる）へ 1/4 回転させて、ブレーキをセットしてください。

作業場の点検



操作を行う必須条件は、以下のとおりです。

☑ 本操作説明書の安全な機械操作の原則を学び、実施してください。

1 危険な状態での使用を避ける。

2 必ず操作前の点検を行う。

3 使用する前に必ず機能テストを行う。

4 作業場を点検する。

次のセクションに進む前に、作業場の点検についてよく理解してください。

5 決められた用途にのみ機械を使用する。

作業場の点検の基本

作業場を点検することによって、オペレータは作業場が安全な機械操作に適しているかどうかを判断することができます。オペレータは、作業場に機械を移動する前に作業場の点検を行わなければなりません。

オペレータは作業場で起こりうる危険を心得た上で、機械の移動、セットアップ、運転の際に注意を払い、危険を回避してください。

作業場の点検

次の危険な状態に注意し、これらを回避してください:

- ❑ 急に低くなっているところ、くぼみ
- ❑ でこぼこした道、床の障害物もしくは破片
- ❑ 傾斜面
- ❑ 不安定な地面、滑りやすい地面
- ❑ 頭上の障害物、高圧送電線
- ❑ 危険な場所
- ❑ 機械の重量に耐えられない地面
- ❑ 風や天候の状態
- ❑ 関係作業員以外の人の存在
- ❑ その他、起こりうる危険な状態

操作手順



操作を行う必須条件は、以下のとおりです。

☑ 本操作説明書の安全な機械操作の原則を学び、実施してください。

1 危険な状態での使用を避ける。

2 必ず操作前の点検を行う。

3 使用する前に必ず機能テストを行う。

4 作業場を点検する。

5 決められた用途にのみ機械を使用する。

原則

操作手順のセクションでは、機械操作の手順を機能ごとに説明しています。安全規則やオペレータの安全および責務マニュアルの手順に従うことは、オペレータの任務です。

機材を持ち上げる目的以外に機械を使用することは危険です。

2 名以上のオペレータが同じ勤務時間内で異なる時間帯に機械を使用する場合、各オペレータが、すべての安全規則と操作説明書の手順に従わなければなりません。すなわち、オペレータが交替するたびに、次のオペレータが機械の操作前に、操作前の点検、機能テスト、作業場の点検を行う必要があります。

操作手順

セットアップ

障害物がなく、平坦で安定している場所を選択してください。

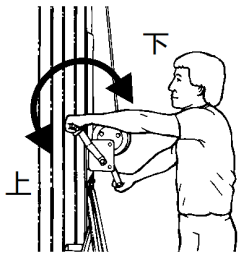
「機能テスト」セクションのセットアップ手順に従ってください。

積荷の上げ下ろし

1 積荷を積荷取扱いアタッチメントの中心に置きます。積載荷重量表のセクションを参照してください。

2 積荷を積荷取扱いアタッチメントに固定します。

3 ウィンチハンドルをしっかりと握ってマストの方向へ回転させ、積荷を上げます。ケーブルがドラム上に不均等に巻かれないようにしてください。



4 ウィンチハンドルをしっかりと握ってマストの反対の方向へ回転させ、積荷を下げます。任意の位置まで下がったら、ウィンチハンドルをマストの方向（積荷を上げる）へ 1/4 回転させて、ブレーキをセットしてください。

積載した機械の移動

作業場で機械を移動する場合、積載していない状態が最も理想的です。積荷が上昇している状態での移動は、積載および積み下ろしのために制限すべきです。積荷が上がっている状態で機械を動かす必要がある場合、以下の安全規則を理解し、従ってください。

- 現場が平坦であり、障害物がないことを確認してください。
- 積荷が積荷取扱いアタッチメントの中心に配置されていることを確認してください。
- 積荷が積荷取扱いアタッチメントへ固定されていることを確認してください。
- 急な発進または停止は避けてください。
- 積荷をできるだけ低い位置にして移動させてください。
- 関係者以外は、機械および積荷に近づかないでください。

使用後の注意

機械を保管する場合は、セットアップ手順を逆の順序で行ってください。

固い水平な地面で、風雨にさらされない、障害物や人や車の往来のない、安全な格納場所を選んでください。

積載荷重量表

必ず以下に従うこと。

☑ 積荷を適切な位置に置かなかった場合、重傷を負ったり死に至る可能性があります。

☑ 上げようとしている積荷が、積載中心点の最大積載量を超えていないか確認してください。次のページの積載荷重量表を参照してください。

⚠ 警告 転倒の危険。機械の最大荷重量を超えた積荷を上げると、重傷を負ったり死に至る可能性があります。

☑ 積載中心点は積荷の均衡点（重力の中心）として定義され、積荷中心ゾーン内になければなりません。

⚠ 警告 転倒の危険。積荷が適切に積荷中心ゾーンに配置されていないと、重傷を負ったり死に至る可能性があります。

Forks

積荷配置手順

1 積荷の重量と積載中心点の場所を決定します。

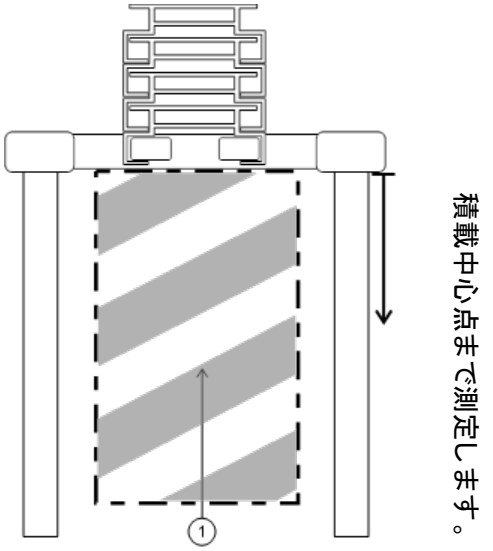
2 キャリッジに最も近い積荷から積載中心点を計測します。

3 次ページの表を参照し、現在のフォークの位置において、機械が積載重量を持ち上げることができるかどうかを判断します。

4 できるだけキャリッジに近くなるように、フォークに積荷を配置します。

5 積載中心点が積載中心ゾーン内になるように、積荷を置きます。

6 積荷をフォークに固定します。



1. 積載中心ゾーン

標準フォーク、調節可能フォーク、およびフラットフォークの最大積載中心点に関しては、次ページの表を参照してください。

積載荷重量表

ブーム

積荷配置手順

1 積荷の重量と積載中心点の場所を決定します。

2 下の表を参照し、ブームの位置において、機械がこの重量を持ち上げることができるかどうかを判断します。

3 積荷をブームのリフトシャックルに固定します。

積載中心点まで測定します。



18 in 46 cm　24 in 61 cm　32 in 81 cm　42 in 107 cm

最大積載中心点

（キャリッジの前から測定）

標準フォーク	24 in	61 cm
調節可能フォーク	24 in	61 cm
ブーム	42 in	107 cm
調節可能フラットフォーク	28 in	71 cm
積荷作業台	24 in	61 cm
パイプクレードル	18 in	46 cm
延長フォーク	42 in	107 cm

積載荷重量表

		積載中心点												
インチ		18	20	22	24	26	28	30	32	34	36	38	40	42
cm		46	51	56	61	66	71	76	81	86	91	97	102	107
モデル														
SLA-5	lbs	1,000	1,000	1,000	1,000	938	875	813	750	670	590	510	430	350
	kg	454	454	454	454	425	397	369	340	304	268	231	195	159
SLA-10	lbs	1,000	1,000	1,000	1,000	913	825	738	650	600	550	500	450	400
	kg	454	454	454	454	414	374	335	295	272	249	227	204	181
SLA-15	lbs	800	800	800	800	763	725	688	650	620	590	560	530	500
	kg	363	363	363	363	346	329	312	295	281	268	254	240	227
SLA-20	lbs	800	733	667	600	563	525	488	450	430	410	390	370	350
	kg	363	332	303	272	255	238	221	204	195	186	177	168	159
SLA-25	lbs	650	583	517	450	425	400	375	350	330	310	290	270	250
	kg	295	264	235	204	193	181	170	159	150	141	132	122	113

輸送および持ち上げの手順

必ず以下に従うこと。

☑ 輸送車両は水平な地面に駐車してください。

☑ 機械を載せる際は、輸送車両を動かないように固定してください。

☑ 車両の積載荷重量、積載面、チェーンやストラップが機械の重量に十分に耐えうるものであることを確認してください。機械の重量についてはシリアルラベルをご覧ください。

☑ 機械は、輸送車両にしっかりと固定されていなければなりません。チェーンやストラップは、積載荷重量に十分耐えうるものを使用してください。

機械の積載

積荷取扱いアタッチメントを機械から外し、収納場所に安全装置を設置したことを確認してください。

1 輸送用にロックするために、完全にキャリッジを下げます。

2 キャリッジホールドダウンバーをキャリッジ上で回転させます。

3 キャリッジホールドダウンバーに触るまでキャリッジを上げます。

4 積載ホイールを目的の場所へ調節します。ピンが適切に挿入されていることを確認します。

5 後方ベースキャスターをロックします。



6 機械を運搬車に立てかけます。運搬車へ機械を積む場合は、適切な手段で行ってください。キャリッジが下方の位置にロックされていることを確認してください。



7 1 本以上のチェーンまたはストラップを使用して、機械をトラックベッドに固定します。チェーンまたはストラップをマストにかけます。チェーンまたはストラップを脚の部分ににかけると、脚を傷めるおそれがあります。



8 機械を降ろすには、積み上げの方法と逆の順序で行ってください。

クレーンによる機械の積載

脚と安全装置が収納場所にあることを確認してください。

機械全体を点検し、緩んでいたり固定されていないものを取り外します。

後方マスト柱の上に取り付けられたリフトブラケットを使用します。



リフト用フックは、必ず機械と逆に向くようにリフト用金具に通してください。

ステッカー

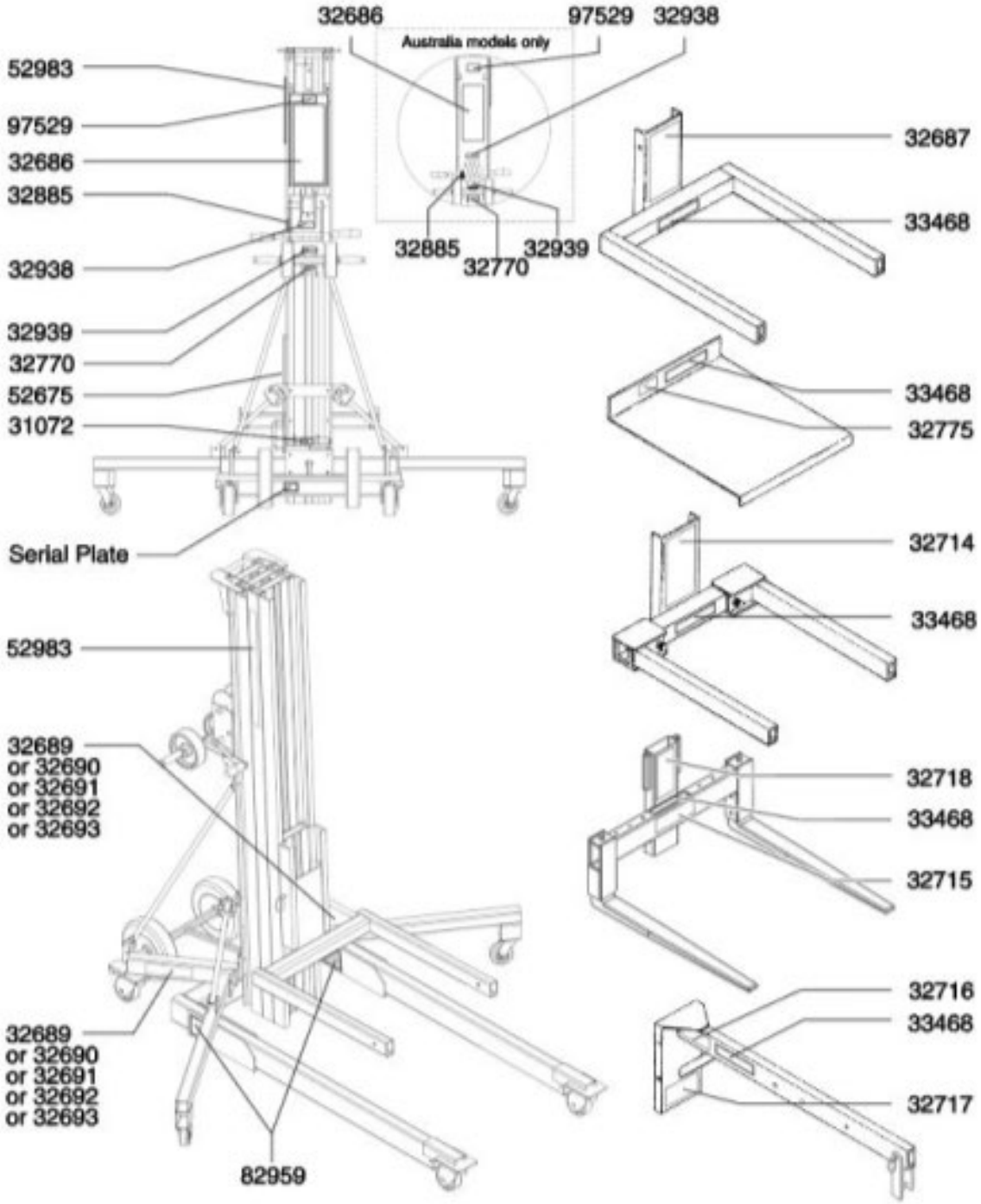
警告用語付きステッカーの点検

機械に貼られているステッカーの警告用語やシンボルを確認します。適切な点検方法で、ステッカーの文字がすべて読める状態で所定の位置に貼られていることを確認してください。

品番	ステッカーの説明	数量
31072	ラベル - 取扱説明書保管場所	1
32686	警告 - 機械の安全およびセットアップ	1
32687	警告 - 標準フォークの安全／セットアップ	1
32689	外装 - SLA-5	2
32690	外装 - SLA-10	2
32691	外装 - SLA-15	2
32692	外装 - SLA-20	2
32693	外装 - SLA-25	2
32714	警告 - 調節可能フォークの安全／セットアップ	1
32715	注意 — フラットフォークのセットアップ	1
32716	注意 - ブームのセットアップ	1
32717	警告 - ブームンの安全性	1
32718	警告 - フラットフォークの安全性	1
32770	注意 - 高速/低速シフト操作手順	1
32775	警告 - 落下の危険、積荷作業台	1
32885	警告 - サイレントウインチ	1
32938	ラベル - このウインチを使用	1
32939	警告 - 手のケガの危険、ブレーキロック	1
33468	警告 - 操作者が不在です	1
52675	注意 - 機械故障の危険	1
52983	外装 - Superlift Advantage Logo	2
97529	注意 - 人体への傷害の危険	1
97547	危険 - 感電の危険	2

■ 影の部分はステッカーが隠れていて見えないことを示しています (例:カバーの下など) 。

ステッカー


32686
97529
32938
Australia models only
52983
97529
32686
32885
32938
32939
32770
52675
31072
32885
32770
32939
32687
33468
33468
32775
32714
33468
32718
33468
32715
32716
33468
32717
Serial Plate
52983
32689
or 32690
or 32691
or 32692
or 32693
32689
or 32690
or 32691
or 32692
or 32693
82959

ステッカー

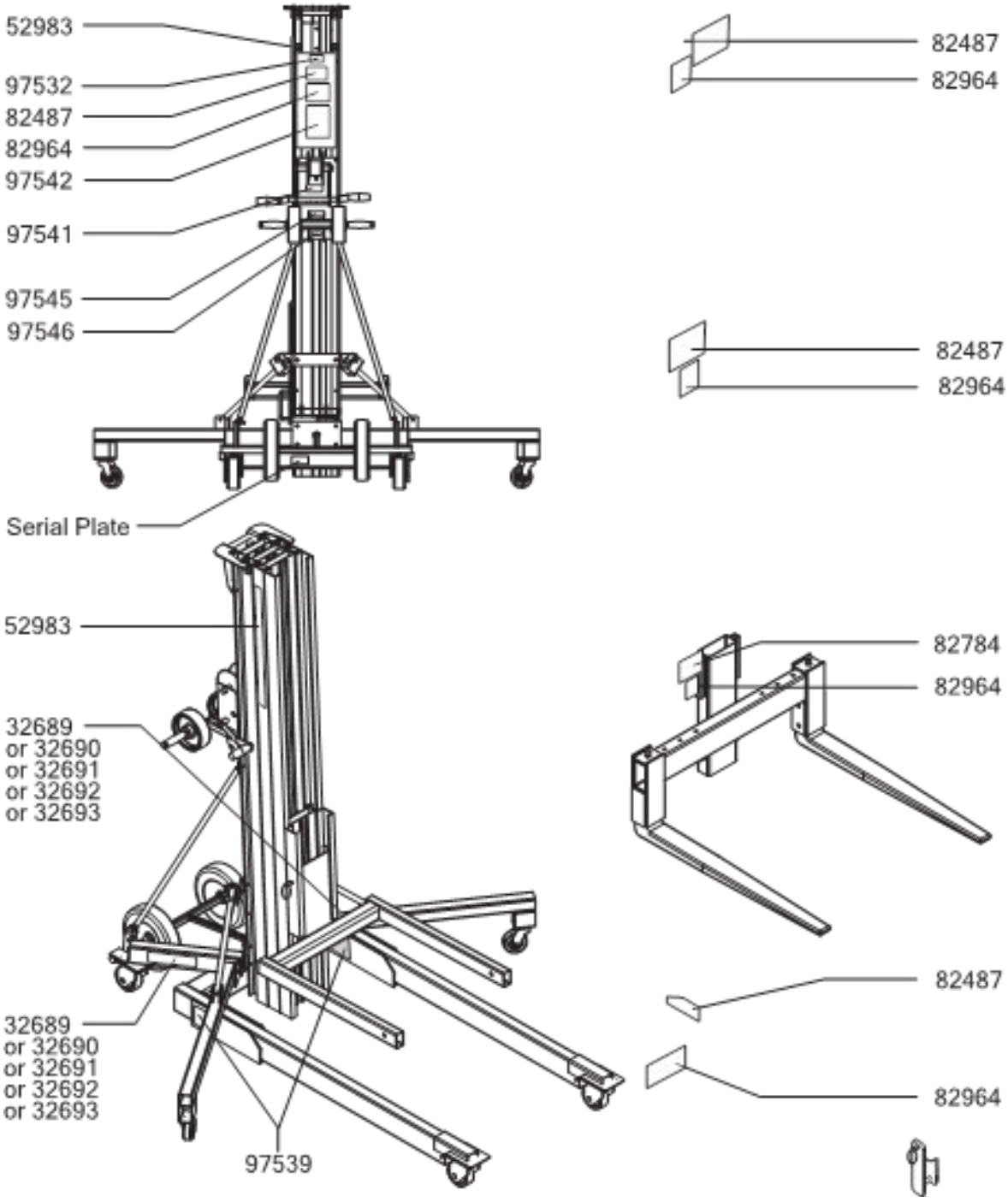
シンボル付きステッカーの点検

機械に貼られているステッカーの警告用語やシンボルを確認します。適切な点検方法で、ステッカーの文字がすべて読める状態で所定の位置に貼られていることを確認してください。

品番	ステッカーの説明	数量
32689	外装 - SLA-5	2
32690	外装 - SLA-10	2
32691	外装 - SLA-15	2
32692	外装 - SLA-20	2
32693	外装 - SLA-25	2
52983	外装 - Superlift Advantage Logo	2
82487	ラベル - マニュアルを読む	2
82964	警告 - 操作者が不在です	1
97532	注意 - 人体への傷害の危険	1
97539	危険 - 感電の危険	2
97541	ラベル - このウインチを使用	1
97542	警告 - 積載中心点チャート	1
97545	警告 - ブレーキをロック	1
97546	ラベル - 高速/低速シフト	1

■ 影の部分はステッカーが隠れていて見えないことを示しています (例:カバーの下など) 。

ステッカー


52983
97532
82487
82964
97542
97541
97545
97546
Serial Plate
52983
32689
or 32690
or 32691
or 32692
or 32693
32689
or 32690
or 32691
or 32692
or 32693
97539
82487
82964
82487
82964
82784
82964
82487
82964

仕様

モデル	SLA-5	SLA-10	SLA-15	SLA-20	SLA-25
高さ、収納時	78.50 in 2 m	78.50 in 2 m	78.50 in 2 m	78.50 in 2 m	78.50 in 2 m
標準ベース、幅	31.50 in 80 cm	31.50 in 80 cm	31.50 in 80 cm	31.50 in 80 cm	31.50 in 80 cm
標準ベース、幅（安全装置を降ろした場合）	78.625 in 2 m	78.625 in 2 m	78.625 in 2 m	78.625 in 2 m	78.625 in 2 m
標準ベース、幅 最低	31.50 in 80 cm	31.50 in 80 cm	31.50 in 80 cm	—	—
標準ベース、幅 最高	58 in 1.5 m	58 in 1.5 m	58 in 1.5 m	—	—
長さ、作業台収納時	29 in 74 cm	29 in 74 cm	29 in 74 cm	29 in 74 cm	31 in 79 cm
高さ - 操作時	59.50 in 1.5 m	59.50 in 1.5 m	72.50 in 1.8 m	80.50 in 2 m	80.50 in 2 m
最低地上高	2 in 50.8 mm	2 in 50.8 mm	2 in 50.8 mm	2 in 50.8 mm	2 in 50.8 mm
積載荷重量 積載中心点 18 in/46 cm で	1,000 lbs 454 kg	1,000 lbs 454 kg	800 lbs 363 kg	800 lbs 363 kg	650 lbs 295 kg
注記：他の積載中心点における積載荷重については、積載荷重量表のセクションを参照してください。					
標準ベース - 正味重量	215 lbs 97.5 kg	260 lbs 117.9 kg	317 lbs 143.8 kg	405 lbs 183.7 kg	450 lbs 204.1 kg
ストラドルベース - 正味重量	258 lbs 117.0 kg	303 lbs 137.4 kg	360 lbs 163.3 kg	—	—

積荷取扱いアタッチメント	奥行き	幅	奥行き	正味重量
標準フォーク	27.50 in 70 cm	23.50 in 60 cm	2.50 in 6.4 cm	38 lbs 17.2 kg
調節可能フォーク	27.50 in 70 cm	11.50 in ～ 30 in 29 cm ～ 76 cm	2.50 in 6.4 cm	52.5 lbs 23.8 kg
調節可能フラットフォーク	32 in 81 cm	16 in ～ 31 in 41 cm ～ 79 cm	1.50 in 3.8 cm	73 lbs 33.1 kg
ブーム	18 in ～ 42 in 46 cm ～ 1.1 m	1.50 in 4 cm	6.50 in 16.5 cm	34.5 lbs 15.6 kg
パイプクレードル	27.50 in 70 cm	24.50 in 63 cm	6 in 15.2 cm	10 lbs 4.5 kg
積荷作業台	27.50 in 70 cm	23.50 in 60 cm	2.50 in 6.4 cm	26.5 lbs 12 kg
延長フォーク（それぞれ）	30 in 76 cm	2 in 5 cm	3 in 7.6 cm	4.5 lbs 2 kg

仕様

寸法		SLA-5	SLA-10	SLA-15	SLA-20	SLA-25
標準フォーク	フォーク下降	4 ft 10.50 in 1.5 m	9 ft 9 in 3 m	14 ft 7.50 in 4.5 m	19 ft 6 in 5.9 m	24 ft 4 in 7.4 m
	フォーク上昇	6 ft 7 in 2 m	11 ft 5.50 in 3.5 m	16 ft 4 in 5 m	21 ft 2.50 in 6.5 m	26 ft 0.50 in 7.9 m
調節可能フォーク	フォーク下降	4 ft 10.50 in 1.5 m	9 ft 9 in 3 m	14 ft 7.50 in 4.5 m	19 ft 6 in 6 m	24 ft 4 in 7.4 m
	フォーク上昇	6 ft 7 in 2 m	11 ft 5.50 in 3.5 m	16 ft 4 in 5 m	21 ft 2.50 in 6.5 m	26 ft 0.50 in 7.9 m
調節可能フラット フォーク		4 ft 10.50 in 1.5 m	9 ft 9 in 3 m	14 ft 7.50 in 4.5 m	—	—
ブーム		5 ft 10.50 in 1.8 m	10 ft 9 in 3.3 m	15 ft 7.50 in 4.8 m	20 ft 6 in 6.2 m	24 ft 4 in 7.4 m
注記：地上からシャックルの下までを計測して下さい。						
積荷作業台	フォーク下降	4 ft 10.50 in 1.5 m	9 ft 9 in 3 m	14 ft 7.50 in 4.5 m	19 ft 6 in 6 m	24 ft 4 in 7.4 m
	フォーク上昇	6 ft 7 in 2 m	11 ft 5.50 in 3.5 m	16 ft 4 in 5 m	21 ft 2.50 in 6.5 m	26 ft 0.50 in 7.9 m
注記：標準フォークおよび調節可能フォークとのみ使用可能です。						
パイプクレードルオプションは、最大直径 30 インチ（76cm）までの丸い物体を扱うことができます。 注記：標準フォークおよび調節可能フォークとのみ使用可能です。（作業の高さについては上記を参照）						
マーキングなしフォークオプション 注記：標準フォークおよび調節可能フォークとのみ使用可能です。（作業の高さについては上記を参照）						
延長フォークオプションで、フォークに 6.25～25 インチ（15～64cm）の長さが追加されます。 注記：標準フォークおよび調節可能フォークとのみ使用可能です。（作業の高さについては上記を参照）						
音圧レベル		<70 dBA	<70 dBA	<70 dBA	<70 dBA	<70 dBA

代理店:

www.genielift.com